



北上市×さくらホール feat.ツガワの挑戦… Episode.0

「グループ・インタビューへの想い」編

2024.3.11 さくらホールfeat.ツガワ サポーターズルーム

すべての人が平等に 文化芸術の楽しさを 享受できるまちへ

ホールに「来づらい」人たちともつながるために

「20年やってきて、『まだこれか』という強烈な反省がありました。思いつかないんですよ。頭に、相手の顔が浮かばない。ここに『来づらい』人たちとつながっていないと改めて気づかされました」

そう語るのは、北上市文化交流センター「さくらホールfeat.ツガワ」（以下「さくらホール」）でプロデューサーを務める千葉真弓さんです。

千葉プロデューサーが語った「強烈な反省」とは、北上市と連携して2024年から取り組む、あるプロジェクトを進めるにあたってぶつかった大きな壁を前にして沸き起こった想いです。



▲千葉真弓プロデューサー（さくらホールfeat.ツガワ）

北上市では、文化芸術に特化した市町村条例としては県内初となる「北上市文化芸術基本条例」を 2021 年に制定。さらに翌年には同条例に基づき、文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に進めていくための「北上市文化芸術推進基本計画」も策定し、文化芸術を生かしたまちづくりに取り組んでいます。

その一環として、2024 年から北上市とさくらホールでは、北上市で暮らすすべての人が平等に文化芸術を享受できる機会をつくるべく、新たなプロジェクトをスタートさせています。



▲コンテンポラリーダンスユニット「んまつーポス」と行ったアウトリーチ@ニチイキッズ北上むらさきの保育園（2024 年度）

開館 20 年で来館者 500 万人達成の偉業 さらにその先へ

文化芸術条例をつくるにあたっては、「文化芸術が時間とお金と健康に余裕のある人だけのものではない」という考えが根底にあります。

「文化芸術という視点でいうと、北上市ではさくらホールさんがその象徴的な存在ですし、これまでもユニークな取り組みをいろいろされています。時間とお金と健康のどれかに余裕がないと感じている人たちにも平等に文化芸術に触れられる機会をつくりたいと思ったとき、そういう実績もあるさくらホールさんにご相談したら『ぜひ』ということで一緒に取り組んでいくことになったんです」

北上市まちづくり部の小泉由美子係長は、北上市がさくらホールと連携して今回のプロジェクトを進める狙いをそう語ります。



▲小泉由美子係長（北上市まちづくり部 生涯学習文化課 文化芸術係）

※記載の部署、役職名は2024年当時のものです。

「イベントのときだけ人が集まる場ではなく、いつでもヒトでにぎわう“まちの文化広場”」をコンセプトに2003年11月に開館した「さくらホール」は20周年を迎えた2023年に来館者500万人を達成しました。

さらに、アーティストと一緒にさくらホールを飛び出し、学校や病院・福祉施設をはじめ地域のコミュニティの場へ出かけ、ふだんホールに足を運べない人にも本物の文化芸術を鑑賞する機会を届ける「アウトリーチ」という取り組みも2006年からスタート。現在まで続くその取り組みは音楽の分野だけでも200回を超えるなど、地元・北上市民はもちろん市外の方にも幅広く文化芸術に触れられる機会を提供するホールへと成長しています。

しかし、そうした実績と経験が豊富なさくらホールでも、北上市で暮らす「すべての人」にはほど遠く、今回のプロジェクトは大きな壁に思えました。



▲ヴァイオリニスト・河井勇人氏と行ったアウトリーチ@笠松学童くれよんクラブ（2024年度）

文化芸術の「楽しさ」を通じて、社会包摂につなげたい

今回のプロジェクトは、「社会包摂」（ソーシャル・インクルージョン）という考え方が重要なキーになってい

ます。「社会包摂」とは 1980 年代から 90 年代にヨーロッパでひろがった概念で、乳幼児やその親御さん、障がいをお持ちの方、高齢や病気のために外出が困難な方、外国人の方、経済的な理由で社会との接点が減っている方、LGBTQ+の方なども含め、地域社会の一員としてみんなで支え合う考え方のことです。

「文化芸術には楽しいだけでなく、人の心をラクにしたり、人と人をつなげたりするチカラがあると思います。

海外では社会包摂を進めるツールとして文化芸術に触れることで、自分の新しい居場所だったり生きる活力だったりを得てもらおうと取り組んでいるまちが多くあります。

今回、さくらホールさんと連携して取り組むのも、アウトリーチなどの豊富な経験も踏まえて、文化芸術の楽しさを通じて、今までアプローチできていなかった人たちともつながりをつくり、すべての市民が社会に参加できる機会がひろがっていけばと思っています」

社会包摂にもつながる今回のプロジェクトの意義を、北上市まちづくり部の和泉淳樹主任はそう語ります。



▲和泉淳樹主任（北上市まちづくり部 生涯学習文化課 文化芸術係）

※記載の部署、役職名は2024年当時のものです。

もちろん、さくらホールでも学校や病院・福祉施設などにアプローチしてきた経験はあります。しかし、そこにいる人たちに与えて終わりではなく、その先にいる見えない人たち一人ひとりと、つながろうとする今回のプロジェクトは、さくらホールとしても初の試みでした。最初に触れた千葉プロデューサーの「相手の顔が浮かばない。ホールに来づらい方たちにつながっていない」という言葉も、そういう方たちと「接点」を持たずにいたことに改めて気づかされて沸き起こった「反省」でした。

「人口が 10 万人に満たないまちですから、一人ひとりの顔が見えるくらいの活動をしていかないと、市民のみなさんに必要とされる公共ホールとは言えないんじゃないか。『さくらホール? いない。だって関係ないもん』と言われたら、私たちの存在意義はない。そういう危機感が常にあります。

『さくらホールがあってよかったね。このまちに住み続けたいね』とすべての方たちに思ってもらえる公共ホールにするためにも、ふだんホールに来づらい方たちとつながろうとする今回のプロジェクトはとても重要な取り組みだと思っています。それだけに、いざ動き出したとき、その相手の顔が浮かばないという焦りがありました」

そう語る千葉プロデューサーと同じ焦りを感じていたのが、千葉プロデューサーと同様、さくらホールの開館時から運営に携わってきた高橋裕亮プロデューサーです。



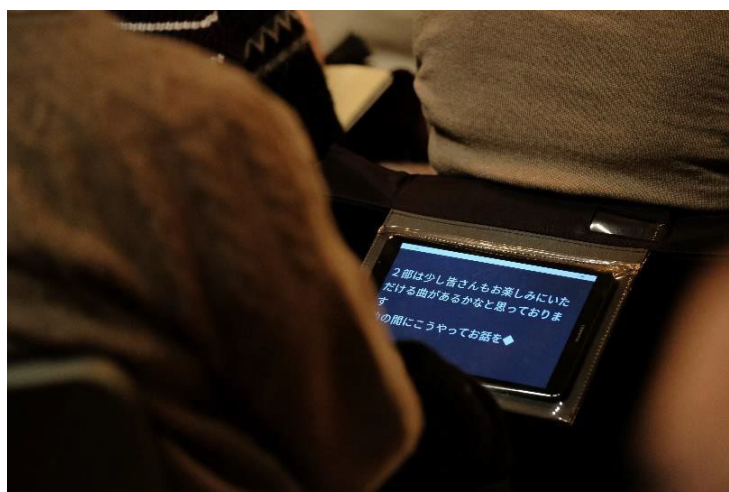
▲千葉真弓プロデューサーと高橋裕亮プロデューサー（さくらホール feat.ツガワ）

コンサートを「誰もが」気軽に楽しめるように

今回のプロジェクトでは、ふだんホールに来づらい人たちにも文化芸術を楽しめる環境を届けるという他に、文化芸術をたくさんの人たちが同時に楽しめるよう「環境を整える」という2つの目標があります。

障がいのある方に向けたコンサートや、子ども向けのイベントなど、ターゲットに合わせた企画は、さくらホールでもさまざまやっています。しかし今回は、例えばいつものコンサートに障がいのある方も来られて、他の観客と同じように音楽を楽しめるようにする環境をつくっていかうというものです。

さくらホールでは「鑑賞支援サービス」という取り組みも 2024 年度から行っていて、聴覚障がいがある方や、聴こえにくい方向けに字幕タブレットや音声補聴・手話サポートなどのサービスを無料で利用できる公演なども実施しています。



▲「鑑賞支援サポート」として無料で貸し出した字幕タブレット（2024 年度）

「鑑賞支援サービスをスタートする際にも感じたのですが、僕はいつも企画を考えると『僕が公演に行きたい

と思ったときにどういうことを思うのか』ということから考えます。まず当事者のひとりとなってコンサートを楽しめるように企画を考えるのですが、今回はそれができない。先ほど千葉が言った通り、当事者の顔が浮かばないんです。当事者の気持ちがわからない。

いつもの公演に障がいのある方も来られて、他の観客と一緒に音楽を楽しめたり、芝居や落語を楽しめたりするためには、何が障壁となっているのか。本当に必要なことは何なのか。僕たちがやろうとしていることが合っているのか、それともズレているのか……。そういうことがまったくわからない。僕たちが勝手な思い込みで進めても、当事者の方に喜んで利用してもらえなければ意味がないので……。だったら、当事者のみなさんのリアルな声を聞くところから始めよう、ということでグループ・インタビューに取り組むことになったんです」

さくらホールの高橋裕亮プロデューサーは、今回のプロジェクトでグループ・インタビューを行うに至った経緯をそう語ります。

鑑賞支援サービスは無料でご利用いただけます。※別途チケット代が必要です。

1. 字幕タブレット

歌詞やお話を文字でご覧いただける字幕タブレットを貸出いたします。字幕は自動で表示されますので、上演中の操作は必要ありません。

定員 5名 ※要事前申込

貸出方法 事前にお申込みの上、公演当日入場口にお越しください。スタッフよりタブレットをお貸しいたします。



2. 音声補聴サポート

聞こえをサポートする音声補聴システム「ヒアリングループ」を使用した音声補聴サポートを行います。Tコイル対応補聴器をご利用の場合はセリフや音楽をご自身の補聴器でダイレクトにお聞きいただけます。Tコイル非対応または補聴器をお使いではない方はイヤホンタイプの機器を貸出いたします。

定員 10名 ※要事前申込

貸出方法 事前にお申込みの上、公演当日入場口にお越しください。スタッフより音声補聴器をお貸しいたします。



3. 手話サポート

本公演には、手話通訳による案内係が常駐しています。受付時、チケットの受取りから客席の案内までをサポートします。事前のお申込みは不要です。

サポート内容

- 手話通訳者による会場内案内サポート
- 上演前の手話によるアナウンス
- 上演中は、会場内に手話通訳案内者が常駐



※本館についての手話通訳はございません。

文化庁文化庁委託事業「令和6年度障害者等による文化芸術活動推進事業」
主催：文化庁、一般社団法人日本障害者舞台芸術協働機構 (JDPA)



▲さくらホールでは 2024 年度に「鑑賞支援サービス」を無料で利用できる落語とコンサートの公演を実施

5つの「声」、その奥にあるたくさんの「想い」とつながるグループ・インタビューへ

北上市とさくらホールが 2024 年度に行ったグループ・インタビューは以下の 5 つです。

- ① きたかみ子どもフェスタ実行委員
- ② 地域包括支援センター（本通り）職員
- ③ 花巻清風支援学校 北上みなみ分教室の教職員
- ④ 聴覚障がいのある方が集う NPO 法人 ひびきの会
- ⑤ 工場で働く外国人



▲きたかみ子どもフェスタ実行委員のみなさんで行ったグループ・インタビューの様子

今回のグループ・インタビューの様子をまとめたリポートは、後日改めてご紹介しますが、グループ・インタビューのすべてに参加した2人のプロデューサーは、今回の取り組みをどう感じたのでしょうか。

「さくらホールに対する率直な意見を多く聞くことができましたし、当事者のみなさんから直接話を聞かなければ知り得なかった実情やリアルな想いにも触れることができた貴重な時間となりました。いただいたご意見や、このグループ・インタビューでの気づきを落とし込んだイベントなどの事業やサービスを2025年度から実現していきたいと思います。とても楽しみです（笑）それに今回のグループ・インタビューでは、いろいろな方たちとつながることができたので、今後は一緒に講座やイベントの企画など新しいことができれば、『北上市に暮らすすべての人が文化芸術を享受できるまち』に近づいていけるのではないかと思います」（千葉真弓プロデューサー）

「今回いろいろな方とお話をさせていただいて思ったのは、さくらホールへの期待が非常に高いということでした。みなさんお忙しい中、お時間をいただいてつながったこのご縁を大事にしたいと思いますし、みなさんの期待にも応えていかなければと改めて想いを強くしました。みなさんからいただいた貴重なご意見は公演事業だけでなく、ホールでのサービスだったり、アウトリーチのような取り組みだったり、さまざまところに活かせるものです。ただ公演チケットを売って終わりではなく、どうやって“人”につなげていくか……。僕は『お客さんと一緒につくるホールにしたい』と思っていつも取り組んでいるのですが、人とのつながり、お客さんとのつながりを大切にした取り組みがますます重要になってくると思いました」（高橋裕亮プロデューサー）



▲高橋裕亮プロデューサー（さくらホールfeat.ツガワ）

すべての人が文化芸術の楽しさを享受できる、わくわくするまちへ……。 「強烈な反省」からスタートした北上市とさくらホールプロジェクトは、5つのグループ・インタビューを通して今後の取り組みに対する大きなヒントと、新しい何かが生まれる“ご縁”にもつながった貴重な機会となりました。2人のプロデューサーも確かな手応えを感じています。

北上市とさくらホールでは、今回のグループ・インタビューをもとにした事業を2025年度から実施する予定です。今後の取り組みに、乞うご期待！

今回のグループ・インタビューの様子をまとめたリポートは、後日改めてご紹介します。そちらもお楽しみに！



参考)「北上市文化芸術基本条例」はこちら！



https://www.city.kitakami.iwate.jp/life/soshikikarasagasu/shogaigakushubunkaka/bunkageijutsukakari/1_1/bunkageijutsusuisin/18633.html

「北上市文化芸術推進基本計画」はこちら！



https://www.city.kitakami.iwate.jp/life/soshikikarasagasu/shogaigakushubunkaka/bunkageijutsukakari/1_1/bunkageijutsusuisin/23213.html